

多品種対応 × 省人化

「物量変動に強く、稼働率を落とさない ICT 前の自動化を実現！」

お客様の課題



SMT 後工程は人手作業が多くて、自動化したい気持ちはずっとありました。ただ、基板ごとに工程が違うのでライン化は難しいし、物量が落ちた時に装置が遊ぶのも怖いですね。結局、人は多いままなのに改善が進まず、どう手を付ければいいのか悩んでいます…。

01 多品種少量で
自動化しづらい

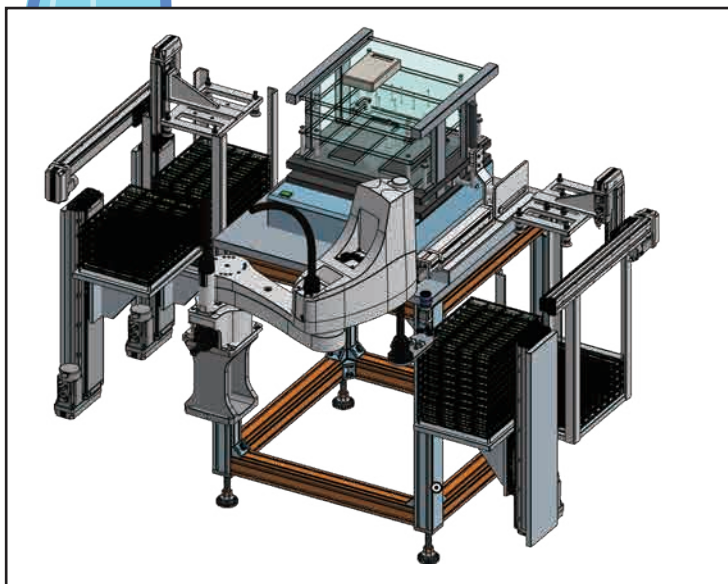
02 装置の稼働率が
上がらない

03 自動化コストと
省人化効果が見合わない

ヤマハのご提案内容



”ロボットメーカーが主導する装置”だからこそできる
コストパフォーマンスと多品種対応提案で問題を総解決！



01 スカラ活用で多品種対応を実現

スカラロボットを主にした基板ハンドリングと、共通化したツール構成で形状違いに柔軟対応。

02 機能別セル構成で稼働率を最大化

基板を選ばず処理できるセル構成により、工程を飛ばす基板があっても装置が遊ばない。

03 必要なところだけ自動化し、 投資対効果を明確化

治具交換と同時に行える段取り設計、あえてマニュアル作業を残し、コストを最適化。

参考納期・価格

3 か月～ 1,500 万円～

投資回収見込み

1 年 6 か月 500 万円 × 1 人 × 2 直
= 1,000 万円 / 年



お客様の声



投資効果を数字で示してもらえたので、納得して導入を決められました。基板の違いも、ICT の治具交換と一緒にツールを少し替えるだけで対応できるため、現場もすんなり受け入れてくれました。なんでも自動化せず、必要箇所に絞ってくれたのが一番良かったですね。